

NEWSLETTER #86

研究例会報告

p. 1 2010年度第2回関東地区例会 報告 加藤 綾子

第22回年次大会実行委員より

p. 4 第22回年次大会のご案内

国際委員長より

p. 7 国際委員会と国内学会の分離について.....細川 周平

information

p. 8 理事会・委員会活動報告
会員の OUTPUT

p. 9 事務局より

◆研究例会報告◆

2010年度第2回関東地区例会報告 加藤綾子

日時：2010年9月18日（土）13～15時
場所：東京芸術大学 北千住キャンパス
テーマ：＜洋楽＞の日本市場への導入から＜邦楽＞の
海外展開まで
ゲスト：田中章（元ソニー・ミュージックエンタテイ
ンメント、海外マーケティング部）
企画・導入：加藤綾子（東京大学大学院）
司会：佐藤良明

はじめに企画者の加藤から、世界全体と日本国内の音楽市場の動向が概観された。市場規模、媒体別の売上げについて、グラフを使つての綿密な国別比較があり、日本のコンテンツ産業全体のなかで音楽の占める割合も、音楽業界の収入の内訳もグラフによって示された。世界的なパッケージ製品（CD等）の急な落ち込みが、業界に与えているシビアな影響を如実に見る事ができた。

続いて、邦楽の海外展開の歴史が概観され、新規に海外ライセンスされる邦楽タイトル数の調査、国別比較があり、台湾、韓国を筆頭とするアジア諸国に比べ、北米・南米・ヨーロッパへの出荷数がいかに少なかったかが示された。一方で、その状況を打開する契機として、米国でのアニメ・コンベンションである「アニメ・エキスポ」「オタコン」会場におけるJ-POPやJ-rockのコンサートが開催状況が紹介されたほか、パリで毎年開催される「ジャパン・エキスポ」の人気の近年かなり上昇していることにも言及があった。2010年の来場者数は17万人。来場者のアンケートによると、日本食や伝統文化に加えて、漫画、アニメ、ゲームなどが日本の魅力として捉えられており、「好きな音楽」もビジュアル系やジャニーズの男性歌手やグループほか、日本でも人気の女性アイドル、シンガーソングライターの名前も並び、日本ではあまり馴染みの無い、分島花音（わけしまかのん）の人気の高さも目立つ。

こうした実態調査から、国内楽曲を海外に展開する際に必要な各市場の特性を把握することができる。各市場の消費傾向に加え、各国の音楽業界の構造（誰がどのように音楽を販売しているのか、権利の所在や許諾方法、商慣習など）を知ることも重要。そのうえで、現場に即したマーケティングを種々の側面から計画しなくてはならない。

この報告を、導入として、田中章氏のお話を伺った。はじめに社史概要が説明され、邦楽の海外展開から見たアジア市場と欧米市場、そして、海外展開の成功事例として女性ユニット、パフィーの事例が紹介された。そして最後に活発な質疑応答が行われた。以下はその概要である。

1. 社の活動全般について

ソニー・ミュージックエンタテインメントは、1968年、合弁会社のCBSソニーとして設立。その後、日本のソニーが株式を買い取り、国内会社（SMEJ）となった。他方で、CBSレコード（後のSME）はニューヨークに本社を置き、日本を除く全世界のSMEを管轄している。SMEJは資本の上ではSMEとは別会社である。

CBSソニーは設立から10年目で国内シェア1位となったが、その要因のひとつに、新人の育成（現在のSD部

門の存在）が挙げられる。それまで日本の音楽業界では「芸能事務所」がアーティストを発掘し、レコード会社が借り受けるかたちでレコードを発売するのが常態だったが、同社では、売上全体の8割を自社発掘のアーティストが占めていたため、原盤使用料を芸能事務所に支払わずにすむ有利な展開が可能となった。

もう一つは、ライブハウス Zepp（ゼップ）など、各地に自前のインフラを整備していったこと。これが一般会場をコンサート用に整備する手間と費用の削減をもたらした。

海外部門では「ここにはないもの」を逸早く見極めることが重要になる（日本における韓流ブームも、結局は日本になかったものを掘り起こした現象だった）。この視点はパフィーの北米展開にも生かされた。

音楽ビジネスは、ものを扱っているようで、ものを扱っていないのではない点の特徴である。マドンナがレコード会社との契約を更新せず、大手興行会社のライブ・ネーションと契約したことは、360度ディール（一企業が全方位ビジネスを行う）の代表事例で、今後の音楽コンテンツ・ビジネスのありようを予感させる。

2. アジア市場について

アジア市場と欧米市場は完全に異なり、そして、アジア市場もまた一枚岩ではない。「アジアの音楽」という括りは、対欧米市場ならば可能だが、対アジア市場では成立しにくい。

アジア市場では香港、台湾、韓国などの東アジアが印税収入の8割を占め、マレーシアやフィリピン、インドなどにはJ-POP市場がほとんど無い。歴史的に中華圏では、香港を中心に、邦楽が普及していた。1990年頃までは、地元の作家（ソング・ライター）が育っていなかったという背景があり、90年代中頃までの香港では、年間ヒットチャート上位10曲のうち半分以上が邦楽のカバー曲が占めていた。ところがアーティスト育成を理由に、香港で邦楽カバー曲の放送が禁止されると、その舞台は台湾へと移動した。台湾ではAmerican Born Chinese (ABC) が邦楽を歌唱し、その影響もあってマンダリン語圏で邦楽がヒットする構図が成立した。

台湾でヒットした邦楽の代表事例として、台湾のアイドル・グループ「F4」が歌ったドラマ「花より男子」

の主題歌「流星雨」がある。これは日本原作の漫画が、日本に先行して台湾でドラマ化されたもので、平井堅が歌っていた原曲も、これに伴って知られていった。このように、カバー・ヒットのオリジナル盤として売られていった例に、五輪真弓や安全地帯がある（ちなみに、現地歌手によるカバーという手法は、かつて洋楽の日本市場への導入時にも採られた方法である）。

カバーに次いで影響力があるのがテレビ・ドラマである。1990年代、「東京ラブストーリー」のアジア圏でのヒットが、海賊盤を通してではあるものの、日本の楽曲が知られていく状況をもたらした。中華圏では「タイアップ」の戦略は日本ほど盛んではないが、やはりドラマを通して人気が出る傾向ははっきり観察できる。このようにしてアジア市場でヒットしたアーティストには、チャゲ&飛鳥、宇多田ヒカル、MISIA、ドリカムなどが挙げられる。

近年では、邦楽アーティストの情報がインターネットを介してリアルタイムで伝わるという環境ができていたので、日本で知名度のあるアーティストは「プッシュすれば売れる」という状況にもある。著作権がらみで慎重な姿勢をとることが日本の音楽業界には多いが、今後の展開のためにインターネットをいかに使っていくかは課題であろう。

3. 欧米市場について

アジア圏で受けるアーティストと、欧米で受けるアーティストは、きれいに二分される。フランスで人気を集める分島花音（わけしま かのん）は、ゴシック・ロリータのファッションでチェロを弾きながら歌うアーティスト。異性装風のコスプレが人気を呼んだ男子バンド Antic Cafe（2010年解散）もSMEJがマネジメントを行い、ワールド・ツアーでロシア、イギリス、北米、南米などを回った。世界各地に存在する彼らのコアなファンは、アニメやゲームを中心としたJ-カルチャーの浸透と、音楽も切り離せないものであることを物語っている。

女性ユニット、パフィー（海外でのユニット名はPuffy AmiYumi）の海外展開は、「JAPAN NOT FOR SALE」というサンプル盤CD——日本の音楽を北米に」というコンセプトで制作されたアルバム——に収録された彼

女らの楽曲が、米国のカレッジ・ラジオで放送されたことから始まった。パフィーの楽曲は偶然、米国のカートゥーン・ネットワークのプロデューサーの耳にとまり、そのテーマソングに起用されることとなった。パフィーの2人が主人公の、子供向けアニメが人気となり、彼女たちがアイコンとしてスタイルを確立できた点が成功要因だと思われる。

つまりパフィーの事例は仕掛けられたものではなく、その特異な「キャラ」がそのまま外国の市場で注目を浴びたものであるから、スタイルやサウンドを北米向けに特に大幅に変える必要もなかった。また、子供向けの媒体でヒットしたので、特に日本を背負う必要もなかった。歌詞の言語については、「アーティストのエモーションを表現できる言語」であれば日本語でも十分いけるのではないかというのが田中氏個人の意見である。

パフィーは海外市場に対して仕掛けようとしたわけではなく、サンプル盤CDに収録された楽曲の一つだった。当初は、そこまで売れるとは思っていなかった。むしろ、何が北米で受けるのか分からなかったため、「我々が受けるだろうと思うもの」をアルバム「JAPAN NOT FOR SALE」に入れたのであった。

4. 質疑応答

海外の研究者数名を含む10数名の参加者全員から、活発な質問があった。質問は、アジアの海賊盤問題や、チャイニーズ・ポップスの現状等にも及んだ。またマイケル・ジャクソンやシンディー・ローパーなど数多くのアーティストの国内展開を手がけた田中氏に対し、洋楽の日本盤の現況や、海外タレントのライブ・ビジネスに関する質問も相次いだ。質疑応答の中で、邦楽の海外展開に関して、新たに語られた見解を以下にまとめる。

SMEJであっても、わざわざ海外展開のためだけに投資をすることはない。少なくとも赤字覚悟で行う、ということはない。ただし、海外展開が日本国内向けの宣伝目的の場合は存在する。

パフィーの事例では、予想を超えて北米で盛り上がったことにより、日本で化粧品のタイアップ等を得ることができた。ラルク アン シエルの事例では、香港

のライブでは1万人規模の会場が満員となり、グッズの売上もかなり良かった。X JAPANの海外公演のケースを見ても、物販の売上が海外公演の黒字化に貢献しているといえる。なお、物販はマネジメント会社が行うものであり、レコード会社は音源を売るのがビジネスである。ラルクの事例では双方の会社とも完全に黒字となるかたちで興行を行っている。

中国は「世界最大市場」と言われるが、現在では、まだまだ海賊盤が多いのが特徴である。携帯電話の着うたは単価が安いものの、1億人がダウンロードすれば売上規模はかなり大きくなる。J-POPに理解があるのは南方の地域。安全地帯、松田聖子が人気を得た後、現在までの一時期、政治的背景により空白期間ができてしまっているのも、まだ知られていない邦楽がある。ライブの空気感はコピーされないのも、例えばラルクアン シェルは、まだまだマーケットが広がるだろう。

企業活動は、海外進出が目的であるわけではないので、赤字覚悟で「カルチャーを持っていく」ことはしない。あくまでも「ペイするビジネス」をやっている。邦楽の海外展開においては、一概に、「隙間ビジネス」を考えるのが鍵だと思う。

最後に、退職に際して制作された氏のキャリアを物語るDVDも視聴した。洋楽の日本への導入で蓄積された技術の応用として、邦楽の海外展開に活躍された田中氏との直接のコミュニケーションを通して、人々の記憶や音楽経験を形作る仕事は、今もなお、従事者の属人性に依拠しているというリアルな感触を得た三時間であった。

(加藤綾子：東京大学大学院)

日本ポピュラー音楽学会 第22回大会 (JASPM22)のご案内

※大会の最新情報はウェブサイトをご覧ください
<http://jaspm22.wiki.fc2.com/>

■日程：2010年11月27日(土)・28日(日)

■開催場所：東京藝術大学音楽学部 千住校地

■大会参加費等

◎参加費

会員 一般……………事前申込 3,500円

／ 当日受付 4,000円

会員 学生(含大学院生) ※……………事前申込 2,500円

／ 当日受付 3,000円

非会員 大会参加……………料金・区分は会員に準じます(当日受付のみ)

非会員 シンポジウムのみ参加……………一般 1,000円 / 学生 ※ 500円(当日受付のみ)

※学生区分の適用を希望する方は、大会受付にて学生証の提示をお願いします。

※大学院生は、JASPMの会員区分では「一般 個人」となりますが、大会では「学生」扱いとなります。

◎懇親会費(12月5日、18:00 - 20:00、プロジェクトルーム1、2(1F))

会員……………一般 3,000円 / 学生(含大学院生) 2,000円

非会員……………会員に準じます

■参加申込について

◎参加をご希望の会員の方は、10月にお送りした出欠確認ハガキに必要事項を記載のうえ返信し、大会参加費と懇親会費の合計金額を、これも同封の払込用紙にてお支払いください。

◎出欠確認ハガキは、大会に参加する／しないに関わらず、必ず投函していただきますようお願いいたします。

◎出欠確認ハガキには、「ご氏名」、「Tel/Fax」、「E-mail」を記入し、該当する□印にチェックを入れてください（記入していただいた情報は、当大会に関わるご連絡以外には用いません）。

◎総会を欠席する場合は、出欠確認ハガキの委任状欄の記入が必要です。1か2のどちらかに○印をつけ、2を選んだ場合には会員名を記してください。あとは、日付の記入、署名、捺印をお願いします。

◎事前申込による払い込み期限は、11月11日（木）とさせていただきます。11日以降は、割引はなくなりますが、できるだけ払込用紙での振込をお願いします。また日にちが迫ってからの振込は、実行委員会で確認できていない場合がありますので、大会当日、払込受領書をご持参いただきますようお願いいたします。

◎大会当日のお申し込み&お支払いは、大会受付にて承ります。

◎一度お支払いいただいた費用については返金いたしかねます。どうかご了承ください。

■郵便振替口座

振替口座番号：00130-1-651767
加入者名：松井 領明

■昼食

実行委員会によるお弁当の手配は承っておりません。近隣にはお弁当屋・お惣菜店・デパ地下・スーパー・コンビニエンスストアなどございます。各自でお求めくださいますようお願いいたします。

■宿泊

宿泊に関して、実行委員会による予約や案内などは承っておりません。ご了承ください。

■懇親会

11月27日（土） 18:00-20:00
東京藝術大学音楽学部 千住校地内 プロジェクトルーム1・2
※大会参加と同時に申し込みください。当日での参加も歓迎しますので、大会受付までお申し出ください。

■総会委任状提出のお願い

11月27日（土）17時より総会を予定しています。やむをえず欠席される方は、出欠確認ハガキの委任状欄を必ずご記入いただきますようお願い申し上げます。

■連絡先

〒120-0034 東京都足立区千住1-25-1
東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 毛利嘉孝研究室 気付
日本ポピュラー音楽学会 第22回大会実行委員会
jaspm22@gmail.com

■アクセス

◎JR・東京メトロ（千代田線・日比谷線）・東武鉄道（東武伊勢崎線）・首都圏新都市鉄道（つくばエクスプレス）「北千住」駅下車徒歩5分

■プログラム

◎11月27日（土）

12:00 - 受付開始

13:00 - 16:30 シンポジウム「トランスナショナルな共同研究に向けて」

パネラー

イアン・コンドリイ（米MIT准教授）

シン・ヒュンジュン（韓国聖公会大学教授）

アンソニー・ファン（香港中文大学准教授）

司会

毛利 嘉孝（東京藝術大学）

※シンポジウムの要旨については、プログラムの末尾に掲載しました

17:00 - 18:00 年次総会

18:00 - 20:00 懇親会

◎11月28日（日） 9:30 - 11:00

個人研究発表 Block A-1 司会：木島 由晶（桃山学院大学）

09:30 - 10:00 高橋 聡太（東京藝術大学大学院・修士課程）

音楽ニュースの回路をめぐる——Webメディアを中心に

10:00 - 10:30 日高 良祐（東京藝術大学大学院・修士課程）

日本におけるネットレーベルの活動が示すメディア意識

10:30 - 11:00 太田 健二（大阪大学招聘研究員）

文化の「現場」——クラブカルチャーにおけるVJを事例に

個人研究発表 Block B-1 司会：小泉 恭子（大妻女子大学）

09:30 - 10:00 発表者なし

10:00 - 10:30 柴台 弘毅（関西大学大学院・修士課程）

学校を目指すJ-POP——NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲を事例に

10:30 - 11:00 中村 美亜 (東京藝術大学特別研究員)
プレリウド2010——セクシュアル・マイノリティ
の音楽実践を通して考える芸術性と公共性

個人研究発表 Block C-1 司会: 佐藤 良明
09:30 - 10:00 発表者なし
10:00 - 10:30 栗田 知宏 (東京大学大学院・博士課程)
ブリティッシュ・エイジアン音楽からみる「エイジ
アン」アイデンティティ——ジェイ・ショーンの音楽
実践とその受容を中心に
10:30 - 11:00 大門 碧 (京都大学大学院・博士課程)
「私の歌」——ウガンダの首都、カンパラ版カラオ
ケにおけるポピュラー音楽の消費

©11月28日 (日) 11:15 - 12:15
個人研究発表 Block A-2 小川 博司 (関西大学)
11:15 - 11:45 吉成 順 (国立音楽大学)
“popular music”の初期の用例とカテゴリー意識
11:45 - 12:15 今井 晋 (東京大学大学院・博士課程)
ポピュラー音楽の作品概念再訪——存在論的観点
から

個人研究発表 Block B-2 司会: 小泉 恭子 (大妻女
子大学) / 東谷 護 (成城大学)
11:15 - 11:45 今田 健太郎 (大手前大学ほか)
結婚式にとってBGMとはなにか?
11:45 - 12:15 青木 深 (一橋大学)
「進駐軍ソング」をときほぐす——エキゾチシズム
をめぐる一考察

個人研究発表 Block C-2 司会: 久野 陽一 (愛知教
育大学)
11:15 - 11:45 社河内 友里 (名古屋大学大学院・博
士課程)
漫画に描かれた The Doors とヒップ・コンシューマ
リズム
11:45 - 12:15 渡久山 幸功 (琉球大学ほか)
ポスト・モダン主義的芸術、それともポスト・コロ
ニアル的文化帝国主義——ポール・サイモンの作曲プ
ロセスとスタジオ・ワーク

©11月28日 (日) 午後
12:15 - 13:45 昼休み
12:30 - 13:30 国際委員会 (IASPM-Japan ミーティ
ング)

個人研究発表 Block A-3 司会: 阿部 勘一 (成城大
学)
13:45 - 14:15 加藤 綾子 (東京大学大学院・博士課
程)
国内音楽産業における制作技術環境の変化と原盤
制作主体の変容

個人研究発表 Block B-3 司会: 東谷 護 (成城大学)
13:45 - 14:15 大角 欣矢 (東京藝術大学)

鉄腕アトムの憂鬱——1960年代未来ヒーロー物ア
ニメ・特撮主題歌における半音階上行進行とその意味
作用をめぐって

個人研究発表 Block C-3 司会: 司会: 久野 陽一 (愛
知教育大学)
13:45 - 14:15 中垣 恒太郎 (大東文化大学)
ローリング・ストーンズ『メイン・ストリートのな
らざ者』プロジェクトの方法論——アメリカン・ルー
ツ・ミュージックへの志向と70年代のデカダンス・イ
メージの創出

14:30 - 17:30 ワークショップ
ワークショップA 中南米におけるポピュラー音楽
と社会亀裂
企画代表: 石橋 純 (東京大学)
報告発表: 細川 周平 (国際日本文化研究センター)
水口 良樹 (東京大学大学院・博士課程)
倉田 量介 (東京大学)
討議担当: 鈴木 慎一郎 (関西学院大学)

ワークショップB 大学教育におけるポピュラー音
楽 その2
企画代表: 吉岡 英樹 (東京工科大学)
報告発表: 安田 昌弘 (京都精華大学)
山路 敦司 (大阪電気通信大学)
討議担当: 谷口 文和 (亜細亜大学短期大学部)

ワークショップC 音楽教室におけるポピュラー音
楽演奏
企画代表: 深見 友紀子 (京都女子大学)
報告発表: 深見 友紀子
赤羽 美希 (「うたの住む家」主宰)
藤田 佐和子 (ローランド・ミュージッ
ク・スクール講師)
佐藤 かおる (ローランド・ミュージッ
ク・スクール講師)
討議担当: 室田 尚子 (音楽評論家)

■シンポジウムの要旨

「トランスナショナルな共同研究に向けて」
メイン・シンポジウムは、「トランスナショナルな共
同研究に向けて」というタイトルで、メイン・スピー
カーとして、イアン・コンドリー (米 MIT 准教授)、
シン・ヒュンジュン (韓国聖公会大学教授)、アンソ
ニー・ファン (香港中文大学准教授) の三氏を迎え、
それぞれの経験からトランスナショナルな共同研究
の可能性について語ってまいります。
コンドリー氏は、『日本のヒップホップ: 文化グロー
バリゼーションの現場』(NTT 出版) の著作で知られ
る文化人類学者です。長期にわたるフィールドワーク
に基づいた本書は、日本のヒップホップが単なるアメ
リカからの輸入品ではないことを示し、文化変容の新
しいプロセスを描いたものとして高く評価されていま
す。シン氏は、韓国の60年代以降のポピュラー音楽
の歴史を描いたジャーナリストとしてよく知られる

一方で、韓国のポピュラー音楽研究のパイオニア的な存在として積極的に活動し、韓国の JASPM に相当する KASPM の初代会長になりました。近年は韓国ポップ（K-POP）のアジアにおける受容を、さまざまな国の研究者と共同で研究しています。ファン氏は、香港のポピュラー音楽研究を代表するメディア研究者で、今年夏に香港で開催された「第二回インターアジア・ポピュラー音楽研究学会（IAPMS）」の実行委員長を務めました。香港のみならず、中国本土や台湾など中国語圏に広がるポピュラー音楽の生産や流通を専門に研究する気鋭の研究者です。

とりわけ、ポピュラー音楽は、ほかの文化領域と比較しても、国境を越えて伝播、生産、流通、消費されてきたにもかかわらず、これまでの既存の研究の多くは国境の枠組みに縛られがちでした。情報と交通技術のかつてない発達、国境によって区切られたポピュラー音楽研究のあり方に新しい視点をもたらしつつあります。こうした海外の研究者とともに対話することを通じて、これまでのポピュラー研究のあり方や枠組みを再検討し、新しい研究の基盤が作っていかねばと考えています。

■学生主催関連イベント「授業の終わり」

11月27日（土） 18:00 - 20:00 入場無料
東京藝術大学在学学生による、ライブ、展示、パフォーマンス、Ust 番組などパラレルイベント。

◎LIVE PERFORMANCE：演習室1及びプロジェクトルーム1

撲殺された放課後
居原田はるか

g-celt
O chun

Aaron Choulai

Arni Kristjansson 【DJ】 and more

◎EXHIBITION：プロジェクトルーム2

【Fetistician】吉田みさと、Isom Winton
ゲットースタイルとヴィジュアル系スタイル。アメリカと日本で発生した独特のファッション、生活様式、そして美学。全く異なるふたつの文化を対比し、融合することで“スタイル”の再定義を試みる。

◎BROADCAST：第1講義室 ほか

【PoinoTV SP】安野太郎、危口統之、高橋聡太 等
作曲家安野太郎（東京藝術大学音楽環境創造科助手）が Ustream で仕掛ける音楽番組。普段はさいたま市にある南浦和艺术センター（安野の自宅）で放送が繰り返されているが、この日は JASPM で出張放送。おなじみのメタル放送大学や、その他にも色々と暴れ繰り返られるパワフルな2時間。

国際委員会と国内学会の会計分離について

国際委員長

細川 周平

さる6月12日に開催されたJASPM理事会の席上、国際委員会、すなわち、国際ポピュラー音楽学会日本支部の会計処理の困難が指摘され、その分離の方向が可決されました。とはいえ、実際問題として、どのように支部を制度的に組み立てなおすのかについては、私たち支部会員（＝国際委員）に委ねられています。

国際学会の日本支部が、制度上、国内学会の国際委員会として存在するという奇妙なあり方は、JASPMの創立当初、国際学会（IASPM）との協力関係を強く打ち出したことに始まり、類似の二つの学会（と支部）を別々に運営する手間を軽減することから生まれました。会計上は、国際委員として登録された会員は国際学会の会費相当分（+手数料）を上乗せした額を請求され、国内の会計から前年度の会員数に応じた額が日本支部の銀行口座に振り込まれ、そこからイギリスにある本部の銀行に国際委員長（支部長兼会計）によって振り込まれます。

この方式は実は国際会員数が確定しづらくなるにつれ、うまく機能しなくなりました。滞納者、退会希望者をまめにチェックしなければならず、年に一度のルーティン・ワークでは収まらなくなってきました。今回、会計より問題が指摘されたのは、そういう背景からです。いくつかの対処案を考えました。

A案。国際委員会独自に会計を管理する。現在、国際委員会はほぼ休止状態にあります。国際学会への参加補助や来日会員の講演援助などを発案しましたが、

実質的には何も事業を行っていません。ですから委員長が会計を兼ね（必要なら会計を別に置き）、独自に会員に振込用紙を送り、徴収し、催促することは、さほどむずかしくはないでしょう。そのための郵送費や発送手間費を加算して会費請求をしてもしれません。あるいは国内学会の会費請求の折に、国際用の振込用紙を加えてもよいかもしれない。いずれにせよ、国内学会から国際委員会へという金の動きをなくすことで、会計問題は解決しそうです。

B案。A案のヴァリエーションで、国際委員会を「委員会」ではなく、国内学会内に共存する「日本支部」として性格付けを変える。会員としては大きな違いはない。ただ「委員会」から来る制約を逃れ、本来のあり方にもどる利点がある。たとえばこれまで委員長は理事から選ばれてきたが、別の方法で独自に選ぶことも可能にするし、独自のメーリング・リストがあってもよいかもしれない。

C案。B案のヴァリエーションで、国内学会内に設置する必要はなく、本来の日本支部として独立させる。実質的にJASPM会員が主力で、従来と大きな変化はないだろうが、規則、運営の独自性がより強くなる。その分、運営に係る労力が必要となる。

D案。国際委員会＝支部解散。従来、「国際の会員はまず国内の会員たるべし」という原則があり（これは国際学会が国内の分派活動を嫌ったという経緯があります）、日本から支部を通さずに、個人として国際学会に入会することはできません。しかし国際的には支部の存在しない国の会員もいます。本部にとって支部の利点は会員の確保と会計の簡便さにあります。日本支部は上位数ヶ国に入る規模を誇りますが、支部の形を採らず、個人会員の束になることを妨げることはできないと思います（本部より存続の圧力がかかるはずですが、支部運営の困難を訴えて許可を得るしかないでしょう）。その場合には、各自が年会費に対して高額な手数料を加算して、国際送金する必要があります。国際学会ではクレジットカード決済の可能性が検討されていますが、実現にはまだだいぶかかりそうです。

もっと良い案もあるはずですし、この文章だけでは

事情が呑み込めない方もいると思います。今度の大会では、例年通り、日曜の昼食時に年に一度の委員会を開催しますので、奮ってご参加ください。今後の国際委員会のあり方がそこでかなり決まるはずです。

◆ information ◆

理事会・委員会活動報告

■ 理事会

2010年第4回理事会（持ち回り）

2010年9月19日（議題送付）

2010年9月26日（回答締切）

議題1 前回議事録案の確認

議題2 新入会員の承認

■ 編集委員会

日時：2010年9月26日（日）

場所：武蔵大学江古田キャンパス

議題：『ポピュラー音楽研究 vol. 14』掲載論文の決定、書評他の原稿確認、論文投稿規程の見直し

出席者：南田勝也、増田聡（以上、編集委員）、小泉恭子（編集担当理事）

会員の OUTPUT

1. 戸板律子

「ジャック・ブレルのシャンソンにおける笑いの生成」

例会などのお知らせはEメールにて行なっております。メールアドレスの変更についても、速やかなご連絡を事務局までお願いいたします。

事務局より

1. 原稿募集

JASPM ニュースレターは、会員からの自発的な寄稿を中心に構成しています。何らかのかたちでJASPMの活動やポピュラー音楽研究にかかわるものであれば歓迎します。字数の厳密な規定はありませんが、紙面の制約から1000字から3000字程度が望ましいです。MS-Word又はTextファイル形式にてご投稿ください。ただし、原稿料はありません。

また、自著論文・著書など、会員の皆さんのアウトプットについてもお知らせ下さい。紙面で随時告知します。こちらはポピュラー音楽研究に限定しません。いずれも編集事務局の判断で適当に削ることがありますのであらかじめご承知おきください。

次号(87号)は2011年2月発行予定です。原稿締切は2011年1月20日とします。また次々号(88号)は2011年5月発行予定です。原稿締切は2011年4月20日とします。

原稿の送り先はJASPM事務局です。連絡先は下記の囲みをご覧ください。

2. 住所・所属の変更届と退会について

住所や所属、およびメールアドレスに変更があった場合、また退会届は、できるだけ早く学会事務局(jimu@jaspm.jp)まで郵便またはEメールでお知らせください。

現在、ニュースレターなどはヤマト運輸の「メール便」サービスを利用しております。このため、郵政公社に転送通知を出されていても、事務局にお届けがなければ住所不明扱いとなります。ご連絡がない場合、学会誌や郵便物がお手元に届かないなどのご迷惑をおかけするおそれがございます。

JASPM NEWSLETTER 第86号
(vol. 22 no.4)

2010年11月21日発行

発行：日本ポピュラー音楽学会(JASPM)

会長 細川 周平

理事 大山 昌彦・小泉 恭子・佐藤 良明・高橋 美樹・中原 ゆかり・西村 秀人

学会・編集事務局：

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院国際開発研究科 西村秀人研究室

jimu@jaspm.jp (事務一般)

nl@jaspm.jp (ニュースレター関係)

<http://www.jaspm.jp> (学会ホームページ)

振替：

00160-3-412057 日本ポピュラー音楽学会

編集・発送：西村秀人・社河内友里・近藤博之・松井領明